

巻頭言

上越市企画・
地域振興部長

竹田淳二

日々緑が色濃く目にまぶしい季節となつてまいりました。全国のふるさと上越ネットワーク（Jネット）の会員の皆さん、はじめまして。本年四月一日の異動で企画・地域振興部長に就任した、竹田と申します。巻頭にあたり、ひと言、挨拶申し上げます。

ご案内のとおり、Jネットは、合併前の上越市や旧十三町村の出身者をはじめ、何らかの形で上越市との関わりがある方、上越市に縁やゆかりを感じていらっしゃる方々から成る会で、平成九年七月に発足し、この七月で設立十一年を迎えると聞いております。この間、途絶えることなく、ふるさと上越市の応援団として、声援、ご支援をいただいておりますこと、心から感謝を申し上げます。

さて、Jネットの毎年度最初の行事と

言えは春のふるさと交流会ですが、私も、

この四月に開催された交流会の観覧会に参加させていただきました。当日はあいにくの雨模様で、高田公園の芝生広場にある「Jネットの桜」の下でのお花見とは相成らず、岩間花店さんのご厚意により、お店のお座敷をお借りしての開催となりました。屋内での観覧会となったものの、窓外にほほ満開となった桜をお堀越しに眺めながら、思い出話に花を咲かせ、ふるさとの料理を味わい、参加された方々には大いに楽しんでいただけたのではないかと思っております。

その交流会に参加された方のお一人が、「全国各地の桜を見て回ったことがあるけれど、高田公園の桜は、お堀に映ったたずまいが他と比べようもなく美しい、また、近景に桜を見て遠景に妙高山や南葉山を望んだとき、なんとも言えない懐かしさがこみ上げる」とおっしゃって

たのが、とても印象に残っています。

このように、かつて上越市で暮らし、今ふるさとを遠く離れて暮らす方が目にする桜と日々上越で暮らす私たちが目にする桜とは、同じ桜でありながら、桜に寄せる思いといえますか、桜に触発される思いは自ずと異なっていると思えます。

同じことが、上越市そのものについても言えるのではないのでしょうか。

上越市では、昨年のNHK大河ドラマ『風林火山』を契機として上杉謙信公ゆかりの地であることをPRしたことに引き続き、本年も郷土ゆかりの直江兼統公を主人公とした『天地人』が決定したことや、トキめき新潟国体の開催を来年に控え、競技別リハール大会もいよいよ七月から始まるなど、全国的に注目を集める機会を得ています。

また、上越市の大型プロジェクトについても、北陸新幹線の飯山トンネルと松ノ木トンネルが開通し高架も除々に姿を現してきましたし、上越火力発電所一号系列の工事も着工されました。

市では、これらの機会やプロジェクトを大いに活用し、上越市を広くアピールして当市の価値や知名度を高め、交流人口の拡大を図っていきたくと考えております。Jネット会員の皆さんと市民とで

は、同じ桜に対する感慨が異なるように、上越市そのものの魅力や潜在力のとらえ方も、違っていると思えますので、引き続き、私たちが気がつかない上越市の個性（長所・短所とも）やまちづくりについて、これからは是非ご意見をいただき、市民を「ハッ」とさせていたいただきたいと願っております。また、これまで同様上越市の応援団として、ふるさとをPRしただけであれば幸いです。

そして、何よりも、会員の皆さんにはふるさと上越への深い思いをこれからも変わらずに抱き続け、特別なことがなくても、ふと思いついたら、上越の景色やおいしいものに会いにお越しただければと思っております。

